

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
・理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアに事業所理念を掲げて共有し、実践につなげています。	玄関、各フロアに掲示し意識づけがなされています。また、月1回の会議で理念を共有しています。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の参加はしているが、日常的には散歩時の挨拶、周辺のゴミ拾いを行っている。	入居者の方と地域の行事に参加したり、近隣の清掃活動をされています。また、地域ボランティアも定期的に受け入れておられ、地域との関わりを大切にしています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	訪問や電話での相談を実施している。また、運営推進会議での相談も承っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回ホームの運営報告を行い、参加者の皆様からご意見を頂きサービス向上に生かしている。	2か月に1回第3木曜日に開催されています。入居者代表、自治会や行政、有識者（他法人の代表）の参加があります。ホームの行事や研修等の話をし、意見交換をしています。	平日開催ということもあり、ご家族の参加はありません。利用する立場の方の参加が見込める様、働きかけに期待します。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	特に生活援護課、地域福祉課とは密に連絡を取り合い、生活保護者の状況の報告等行っています。	行政と連携を取り合っています。また、ホームのある行政区には、連絡会があり、近隣のホーム同士、情報を共有しています。また、年2回、行政の参加もあります。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいます。	年1回身体拘束について研修を行っています。エレベーターに関しては施錠していますが希望に応じて、職員が付き添って各フロアへ行ってもらっています。	ホーム前は交通量の多い道路となっており、安全面から施錠していますが、毎年研修会を企画し、身体拘束をしないケアについて周知されています。	
7		虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年一回の施設内研修を行っています。		

8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>年一回の施設内研修を行っています。</p>		
9	<p>契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分に時間を取り説明を行い、疑問等があれば丁寧に説明しています。</p>		
10	6 <p>運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時は必ず家族様との会話の時間を設け、家族の要望や現在の利用者様の状況を話している。</p>	<p>面会時、行事の時などで、ご家族と積極的に関わりを持ち信頼関係を築く様努力されています。ご家族が何でも言える様な雰囲気づくりを意識されています。</p>	<p>玄関に意見箱を設置されていますが、さらに投函しやすい方法がないか検討されています。意見収集する意識を強く感じました。</p>
11	7 <p>運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月一回の職員会議で意見を出し合い、全員で検討している。また、随時、管理者が個別に意見を伺い、運営に反映させている。</p>	<p>朝礼や会議で意見交換をしたり、日々の関わりの中でタイミングを見計らって各々の職員に声をかけたりスタッフとの関わりをもっています。</p>	
12	<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は、年末に必ず個別面接を行い、本人の状態や職場環境についてヒアリングしている。</p>		
13	<p>職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月一回の研修を行っている。また、施設外研修（認知症介護基礎研修、認知症ケア大会、メンタルヘルス研修）に必ず受講してもらっている。</p>		
14	<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>月に一度、西区グループホームの管理者が集まる連絡会議に参加している。</p>		

安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用開始前に、十分な面談の機会を設け、本人・家族に不安なことや要望などを伺っている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用開始前に、十分な面談の機会を設け、本人・家族に不安なことや要望などを伺っている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用開始前の面談の際に、本当に必要なサービスを考え、他のサービスを含めた相談を行っている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>介護する側、される側とせず、一人の人間として寄り添い、出来る事、出来ない事を見極め、介護しています。</p>		
19		<p>本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時に家族様の要望を伺いつつ、家族で出来ること、職員で出来ることを、ともに考え、本人を介護するようにしています。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族様だけでなく友人の面会にも気軽に応じるようにしています。また、面会時間を決めておらず、いつでも訪問していただけるようにしています。</p>	<p>基本的にはご家族の協力のもと馴染みの美容院へく等、関係が途切れない様支援しております。また、スタッフがお墓参りの付き添いするなど、心身の状態に合わせてご家族と相談しながら対応しています。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>行事や外出の機会を設け、利用者様同士が交流できる環境作りを工夫している。時に職員も会話に入り、関係作りを支援し</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所時に「いつでも来てください」とお伝えしており、相談があれば対応するようにしています。</p>		

その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様・家族様のご意見を取り入れ、今までと同じ暮らしができるような環境作りと介護をしています。	入居前の生活情報を参考にしたり、日々のご本人、ご家族の関わりの中から希望、要望を模索しています。	家庭菜園や食事の準備など、入居者の方の活躍出来る事を上手く引き出しておられます。入居者の方の希望、意向を上手く引き出して対応されています。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居後も生活環境や性格などを伺い、本人のこれまでの人生を細かく把握するように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者に担当職員を付け、日常生活の癖や好きなこと、昔の暮らし等を伺い、本人の細かな所を把握するようにしています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者に担当職員を付け、日常生活の癖や好きなこと、昔の暮らし等を伺い、本人の細かな所を把握するようにしています。	基本的に3か月に1回ケアプランの見直しを行っています。また、状況が変化した時は随時、見直しをしておられ、細やかに計画を立案されています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者ごとに、ケアの記録を残し、また、ケアプランに基づいたモニタリングを残し、日々の介護や今後の介護計画に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ変わるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存の介護にとらわれず、常に新しい支援やサービスを検討し、その時の本人の状態に応じた介護に努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別に利用されている地域資源を把握し、家族と共に、今までと同じように地域資源を活用できるよう努めている。		

30	11	<p>かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族・本人の要望により、かかりつけ医を決めさせてもらっています。</p>	<p>ご家族の協力のもと、入居前のかかりつけ医や希望する病院への受診が可能です。また、近隣の協力病院からの往診もあり、適切な医療を受ける事が出来ます。</p>	
31		<p>看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>月に2回の総回診と、月に1度の個別往診、週に1度の訪問看護により、利用者の健康状態を逐次報告している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時の介護サマリーの提供、入院中の相談員との情報交換、家族との相談に努めている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に、本人・家族と共に、まずは重度化・終末期の方針について伺います。また、入所中においても、話し合いを行うようにしています。</p>	<p>入居時に終末期の過ごし方について話し合いを持たれています。ご本人、ご家族の意向をくみ取りながら出来る限りの対応をしています。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>年に1度の救急救命訓練への参加を行っています。また、事故発生時ごとに、状況に応じた応急手当について勉強会を実施しています。</p>		
35	13	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時の緊急連絡網を作成し、万が一の時には職員が駆け付けられるようにしています。</p>	<p>消防署の立ち合いのもと、防災訓練を行っています。また、避難場所や避難方法についても玄関先に表示されています。</p>	<p>実際、有事の際は、スタッフだけでは対応が難しいと思われます。地域住民の協力は不可欠です。地域住民と協力体制の構築に期待します。</p>

. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者の尊厳を守るよう、常に人生の大先輩ということ胸に置いた接遇を心がけています。	排泄への案内時には、「〇〇さん、こちらへ来てもらっていいですか」など、周囲の方に気づかれない様さりげない言葉かけがなされています。また、心地良いトーンで対応されています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生会のおやつメニューや行事食の選定、外出先等は、利用者にしてもらっています。可能な限り、自己決定できる場を設けています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに合わせたスケジュールで介護を行っています。本人の希望を伺って支援するようにしています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服装を自分で決めてもらったり、散髪なども本人の希望する髪型に整えてもらっています。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼり巻き、盛り付け、野菜むき、味見、下膳、皿洗いなど、本人ができることを手伝っていたり、食事を作る段階から楽しくおいしく召し上がっていただく工夫をしています。	入居者の方とスタッフが一緒に調理やテーブル拭きなど活躍する場面を作っておられます。家庭菜園で作った野菜が食卓に並ぶ事もあります。また、時には外食や喫茶店に行かれることもあります。	スタッフは、自前の弁当となっていて、味を楽しむ会話があっても良いかと思っています。スタッフも同じ食事を摂る機会を設ける事に期待します。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事量、水分量は常に確認し、きちんと摂取できていない場合は支援を行います。また、極端に食事量等が低下した場合は主治医に連絡し、栄養摂取できるよう支援します。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1階の歯科往診により、歯科医師から口腔ケアの指導をいただき、各利用者に応じた口腔支援を行っています。		

グループホーム ソフィア

43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>24時間の排泄チェック表を用いて本人の排泄パターンを把握し、適切な排泄誘導を実施しています。</p>	<p>それぞれの排泄パターンを把握しておられ、個々にさりげなくトイレへ案内されています。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>24時間の排泄チェック表を用いて本人の便秘動向を確認しています。薬だけに頼らず、適切な食物繊維、発酵食品の摂取、毎日の運動により、便秘解消に努めています。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>現在の体制では、個々に応じた入浴支援は困難である。</p>	<p>基本的には週2回の入浴日を設けています。また、入浴日以外は希望により足浴を行っています。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>本人の習慣に応じて休息や就寝・起床を支援させていただいています。眠りにくい方には足湯を提供させていただいています。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬剤師と連携し、薬の変更などがあっても、都度、用法容量を確認、理解しています。薬の変更による症状の変化については、都度往診時に医師に報告。相談しています。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>本人の生活歴、趣味、嗜好を活かした日常の役割や楽しみを提供しています。始終同じフロアにだけでなく、他フロアやバルコニー、近所の公園に散歩等、実施しています。</p>		

グループホーム ソフィア

49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>月に一度程度、本人の希望を伺い、買い物に出かけます。また、年に一度、家族の協力も得ながら、個別外出により、普段は行けない場所に出かけています。</p>	<p>日頃から、近くの神社へ散歩や近隣のお店へ買い物に出かけたり、道路清掃など、外出機会を設けています。また、近くで開催されるフリーマーケットに行ったり、お花見などの行事も企画しています。</p>
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の所持を希望する利用者がおらず未実施である。</p>	
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>現在、希望者がおらず未実施である。年に一度、年賀状を書いていたことがあります。</p>	
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>狭い空間ではあるが、皆様に快適に過ごしていただけるよう、利用者の希望を伺いながら、レイアウトや席を決めています。</p>	<p>窓が大きく、自然光が空間に広がります。壁には行事に写真や創作品を飾るなど居心地の良い空間となっています。また、人に慣れた室内犬があり、入居者の方の癒しとなっています。</p>
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>バルコニーや玄関前、1階フロア等にベンチやソファを設置し、利用者同士だけでなく、家族や友人と気兼ねなく過ごせる空間を提供している</p>	
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具や飾付、写真等を自宅から持参していただき、居心地がよく、かつ安全な空間作りに努めています。</p>	<p>馴染みの物や家族の写真、趣味の道具などを持ち込まれ、それぞれの入居者の方が居心地よく過ごせる様な空間となっています。</p>
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自分でできることが増えるような環境作りに努めています。また、個別に安全な環境作りをするため、居室内の危険な箇所は解消する工夫を取り入れています。</p>	

アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回ある たまにある ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	ほぼ全ての利用者と 利用者の3分の2くらいと 利用者の3分の1くらいと ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどいない

グループホーム ソフィア

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くない
66	職員は生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが 職員の3分の1くらいが ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族が 家族の3分の2くらいが 家族の3分の1くらいが ほとんどできていない